優しいまちづくり、支え合うまちづくりを目指して

若槻地区住民自治協議会　会長代行(区長部長)　笠原　秀次郎

新年あけましておめでとうございます

皆様におかれましては、健やかに新しい年をお迎えのこととお喜び申しあげます。旧年中は「若槻地区住民自治協議会（コミわか）」の運営に、多大なご支援とご協力を賜り、厚く御礼申しあげます。

さて、新型コロナは日本上陸から間もなく３年が経過しますが、いぜん終息の兆しは見えず、国民生活に大きな影響を及ぼし続けています。若槻地区においても、春のスポーツ大会やふれあいの旅、秋の運動会など、伝統の行事がいずれも開催できませんでした。

一方で、「若槻総フェスタ」や「若槻あいあい文化祭」などは、３年ぶりに実施することができ、ポストコロナに向けてちょっぴり歩み出すことができたと喜んでいます。コロナが収まって直ちにかつての生活が戻るとは考えにくい情勢ですが、私たちは知恵を出し合ってコロナに打ち勝つ、そんな年にしたいと考えています。

さて『コミわか』では現在、第三次まちづくり計画の策定を進めています。また３月をめどに若槻地区防災計画を改定すべく作業を進めています。

これら２つの基本計画に共通しているのは「優しいまちづくり」、「支え合うまちづくり」です。高齢化が急速に進む中で住民同士がどう助け合うのか、災害が発生した時にどう対応するのかは『コミわか』に突き付けられている極めて大きな課題です。

このうちまちづくり計画では、孤立した際や困ったことが起きた時などに、これまで以上にご近所同士の支え合いができないかという立場から検討を進めたいと考えています。

一方災害対策も急務です。若槻地区においては昨年、上野区で 18 棟を焼く大きな火事が起きてしまいました。台風接近に伴う強風下という不運も重なって規模を大きくしてしまいました。被災した皆様には心よりお見舞い申し上げます。

若槻地区は、これまで災害という面においては比較的平穏に推移してきたと考えています。しかし地球温暖化によって毎年過激化している気象条件、いつ起きても不思議ではない地震・・・災害はもう他人事ではない時代を迎えています。

災害は防ぐことはできないかもしれません。しかし被害の規模を抑えることはできるはずです。地区防災計画は、災害の際の行動指針になり得るもので、この中でも住民同士、地区同士の助け合い、つまり共助を前面に打ち出せたらと考えています。

２つの基本計画はそれぞれの部会討議などを経て決定されますが、絵にかいたモチに終わらせてはなりません。実のあるものにするために、皆様の積極的な参加をお願いするとともに、是非知恵をお借りしたいと考えています。

ロシアのウクライナ侵攻は、モノ不足や物価高という形で、私たちの生活にも様々な影響を及ぼしています。一方の新型コロナは、季節性のインフルエンザと同じ扱いをしようという考え方もあるようです。

新しい年、私たちの生活はどう変わるのでしょうか。マスクの要らない、心から安心できる日常が戻り、災害もなく、世界が平和を取り戻す…そんな１年になることを願っています。